

パグウォッシュ会議を 覚えていますか？

稲垣 知宏

広島大学情報メディア教育研究センター

パグウォッシュ会議とは

2011年7月ベルリンで開催された第59回パグウォッシュ会議に参加してきました。このように言っても、現在のパグウォッシュ会議について国内での知名度は低いようで、パグウォッシュ会議は今でも続いているのかといった質問を受けたりします。パグウォッシュ会議というと、湯川秀樹、朝永振一郎といった物理学者が活躍した時代のことと思われる方も多いのではないのでしょうか。また、パグウォッシュ会議についてあまりご存じないという方もいらっしゃると思います。

パグウォッシュ会議の起源は1955年哲学者 Bertrand Russell が起草、Albert Einstein を含む11名の著名な科学者が署名したラッセル・アインシュタイン宣言に遡ります。この宣言の決議に従って1957年7月カナダのパグウォッシュ村に22名の科学者が集まり核兵器の危険性、放射線の危害、科学者の社会的責任について話し合いました。当時は東西冷戦の最中にあつたにもかかわらず、東西の壁を越えて活発な議論が行われたそうです。第1回パグウォッシュ会議となるこの会議には、日本からも湯川秀樹、朝永振一郎、小川岩雄の3名が出席しています。そこで、科学と世界の諸問題について議論する会議を継続して開催することとなりました。会議の名称は、初回の開催地にちなんでパグウォッシュ会議 (Pugwash Conferences on Science and World Affairs) と名付けられました。1995年にはノ

ーベル平和賞を受賞しています。日本でも、湯川秀樹、朝永振一郎を中心に1955年に日本パグウォッシュ会議が組織されました。また、以下のパグウォッシュの国際会議が日本で開催されています。

.....

第25回パグウォッシュシンポジウム：

「完全核軍縮に向けての新しい構想」, 1975年, 京都

第39回パグウォッシュシンポジウム：

「東北アジアの平和と安全保障」, 1989年, 東京

第45回パグウォッシュ会議年次大会：

「核兵器の無い世界をめざして」, 1995年, 広島

第55回パグウォッシュ会議年次大会：

「ヒロシマ・ナガサキから60年」, 2005年, 広島

.....

いずれかの会議に寄与された読者の方もいらっしゃるかもしれません。なお、現在までに日本から豊田利幸、小沼通二、大西仁、鈴木達治郎、高原孝生(現)の5名がパグウォッシュ会議の評議員に選出されてきています。

第59回パグウォッシュ会議

2011年7月1日から4日にかけてドイツのベルリンで、第59回パグウォッシュ会議が開催されました。筆者は、原子核物理の専門家として会議の直前に招聘状をいただきました。イタリアのバリで開催された第57回会議以来、2度目の参加となります。今回のテーマは「核軍縮と紛争解決のためのヨーロ

ッパの役割」です。フクシマについても最新の話題として大きく取り上げられました。参加者は43カ国から約350名でした。日本からは鈴木達治郎氏(原子力委員会)、高原孝生氏(明治学院大)、勝田忠広氏(明治大学)、栗田禎子氏(千葉大学)に筆者を加えた5名と、スチューデントヤングの会に引き続いて、井出健太郎氏と山口響氏の2名が参加しました。科学者が中心となって始まった会議ですが、議論の対象はいろいろな方面へと広がっており、現在では、自然科学、社会科学の研究者から閣僚、外交官といった政府関係者、もしくはその経験者も少なくありません。残念ながら今回の会議に情報科学の研究者が参加していたかどうかは確認できていませんが、さまざまな分野を専門とする研究者が参加していました。

パグウォッシュ会議では全体会議といくつかのワーキンググループに分かれての議論を進めます。今回のワーキンググループは、以下の6つのテーマに分けられました。

-
- 1. 核軍縮と不拡散(2010年NPT再検討会議後)
- 2. 中東における平和とセキュリティの展望
- 3. 中央、南アジアにおける地域の安定：アフガニスタンの状況とインド・パキスタン関係
- 4. ヨーロッパのセキュリティと軍縮(核・通常兵器の軍備制限と軍縮)
- 5. 科学者の社会的責任
- 6. 気候変動、資源と紛争予防
-

筆者が加わったのは5の科学者の社会的責任です。参加したワーキングの中では、震災に対して日本の科学者がどういった取り組みを行ってきているのかについて3月11日以前と以後の状況を報告し、フクシマと科学者が果たすべき責任についていろいろな視点から議論しました。フクシマについては、全体会議の中で鈴木さんによる原発事故の詳細と日本の現状に関する講演があり、いろいろな方と話をする中でも、人的被害、環境汚染の状況と復旧

の見込みに関する質問、原発の将来に対する提案をいただきました。なお、会議のプログラム、公表資料、成果等に関してはパグウォッシュ会議 Web サイト(<http://www.pugwash.org/>)上の情報とレポートをご覧ください。

パグウォッシュと情報科学

パグウォッシュ会議が対象とする世界の諸問題は時代とともに変わっていきます。核兵器の廃絶と紛争の解決は会議設立時からの大きな課題ですが、その他の大量破壊兵器、気候変動とエネルギー資源などについてもグローバルな問題として取り上げられています。そのような中、イタリアのパグウォッシュグループが主催し2012年1月にトレントで開催される第25回ISODARCO(軍縮と紛争の研究に関する国際スクール)のテーマはサイバースペースのセキュリティとなっています。パグウォッシュでもインターネットを通じた、国家、組織、施設をターゲットとした攻撃について重要な問題の1つとしての検討が始まっているのです。

また、東日本大震災では、混乱が続く中、被害状況の確認、避難情報、災害対策の広報、情報公開他、いろいろな目的で情報システムが利用されました。そこで明らかとなった課題についても、世界の抱える諸問題の中で無視できない位置づけにあると思います。今後、世界の抱える諸問題解決に情報科学とその関連分野研究者の寄与が期待される場面も増えてくると予想しています。

最後になりましたが、この報告を通して、現在のパグウォッシュ会議について少しでも関心を持っていただければと思います。また、科学者、研究者が何をしなくてはいけないのか、今一度、見直していただければ幸いです。

(2011年9月30日受付)

■稲垣知宏 inagaki@hiroshima-u.ac.jp
広島大学准教授、1995年広島大学大学院博士課程修了。研究テーマは情報教育と電子教材他。日本物理学会、日本軍縮学会所属。